

修士論文（要旨）

2020年1月

字音接尾辞〈-化〉をめぐる日中対照

指導 青山 文啓 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

218J3001

王 岳

Master's Thesis(Abstract)
January 2020

Chinese-derived suffix -ka and its uses

WANG YUE

218J3001

Master's Program in Japanese Language Education

Graduate School of Language Education

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Fumihiko Aoyama

目次

第1章 序論	1
1.1 はじめに	1
1.2 先行研究	1
1.3 研究目的	2
1.4 研究方法とデータ	2
第2章 〈-化〉の前接する語について	5
2.1 日中の〈-化〉の意味	5
2.2 〈-化〉の語構造について前接語から見る	5
2.2.1 日本語の〈-化〉の前接語の品詞分類	5
2.2.2 中国語の〈-化〉に前接する単語の品詞分類	7
2.3 〈-化〉の前接する語の日中比較	12
第3章 〈-化〉の用法	15
3.1 日本語の〈-化〉	15
3.1.1 名詞用法	15
3.1.2 動詞用法	15
3.2 中国語の〈-化〉	17
3.2.1 動詞用法	18
3.2.2 名詞用法	19
3.3 日中の〈-化〉の比較	19
第4章 まとめ	23
4.1 話し言葉における日中の〈-化〉の特徴	23
4.2 日本語教育への示唆	24
4.3 おわりに	24

要旨

日本語にも中国語にも〈-化〉という形をとる単語が存在する。〈-化〉は接尾辞として造語能力が高く、多くの分野で使用されている。しかし、むやみに造語しやすい。硬い単語と認識される〈-化〉はよく書き言葉に使用されるが、これまで話し言葉における使用の現状を研究した先行研究はほとんど見当たらない。また、日中で使われ方が異なるため、中国人日本語学習者にとって、負の転移により誤用しやすい。そこで本研究では〈-化〉の日中対照を行う。

日本語、中国語ともどちらかと言うと、〈-化〉の構造は〈二字漢語+化〉が多い。〈-化〉の前にくる前接語は一般には名詞だと思われる。本研究は日中の話し言葉の〈二字漢語+化〉を対象とし、〈-化〉の前接語が具体的にどのような特徴を持っているのかを詳しく考察した。また、両言語の〈-化〉を対照して、共通点と相違点を分析した。

具体的には国立国語研究所が開発した『日本語話し言葉コーパス(CSJ)』と北京語言大学が開発した『BCC 現代漢語語料庫』を利用して、日本語と中国語の用例を検索した。コーパスから検索された用例の前接語は名詞、形容詞、動詞と副詞の四つに分類して考察した。使用については、〈-化〉を名詞と動詞の二種類に分けて、具体的な例文をあげて考察した。

前接語の4類の使用率から見れば、相違点について、日本語の話し言葉における〈-化〉の前接語は、「名詞>動詞>形容詞>副詞」の順に多いという特徴が浮かび上がった。名詞は〈-化〉の前接語として圧倒的に現れやすいということがわかった。中国語の話し言葉における〈-化〉の前接語は「形容詞>名詞>動詞>副詞」の順に多いという特徴がある。形容詞は〈-化〉の前接語として圧倒的に現れやすいということがわかった。両言語の共通点としては、名詞以外に、形容詞、動詞、副詞が〈-化〉の前接語になることが明らかになった。

一方、使用上の共通点を探すと、話し言葉における両言語の〈-化〉には動詞および複合名詞の用法がある。特に、複合名詞として使用される比率が高いことが明らかになった。日本語では動詞は他動詞、自動詞、自他両用がある。動詞の前に「ヲ」を取るかどうかによって自他を判断する。中国語学者は「及物動詞(jíwù dòngcí)」と「不及物動詞(bùjíwù dòngcí)」という用語を使って中国語の動詞を二分する。動詞の後ろに直接、目的語を取るかどうかによって「及物」「不及物」を判断する。自/他と及物/不及物は似た用語である。日本語の〈-化〉には他動詞、自動詞、自他両用がある。中国語は「及物動詞(jíwù dòngcí)」と「不及物動詞(bùjíwù dòngcí)」の用法がある。その点は共通する。相違点については、日本語では〈-化〉は動詞として他動詞の使用が多いが、中国語では自動詞と似た「不及物動詞」が多い。日本語では〈深刻化、陳腐化〉など、自動詞として〈-化〉の前接語はマイナスイメージを抱きやすいが、中国語では、自動詞と似た「不及物動詞」の〈-化〉の前接語は〈公式化〉のようにマイナスイメージを抱くことはない。この点で、日中両言語において、同じ漢字で表記される接尾辞〈-化〉は対照的な使われ方をしていると言える。

キーワード: 〈-化〉 前接語 使用 話し言葉 対照

参考文献

- 池上素子(2000)「「化」について—学会抄録コーパスの分析から—」『日本語教育』106, pp. 27-36.
- 木山幸子 玉岡賀津雄「自他両用の「-化する」における自動詞用法と他動詞用法の比較—新聞コーパスの用例に基づく多変量解析—」『言語研究』139, pp. 29-56
- 田窪行則(1986)「化」『日本語学』(5)3, 明治書院, pp. 81-84.
- 細川英雄(1989)「現代日本語の形容詞分類について」『国語学』185集, pp. 91-103.
- 水野義道(1985)「接尾的要素「-性」「-化」の日中対照研究」『待兼山論叢(日本学)』19, pp. 3-19.
- 水野義道(1987)「漢語系接辞の機能」『日本語学』(6)2, 明治書院, pp. 60-69.
- 山下喜代(2002)「字音接尾辞『化』について」『紀要』(青山学院大学文学部)(44), pp. 119-132.

成方(2000)《現代汉语中の“X化”结构使用规则研究》 北京大学

羅建京(2018)《現代汉语“X+化”派生词的认知言语学阐释》湖南师范大学社会科学学报 2018, 47(05), pp. 120-127.

云汉 峻峡(1994)《再议后缀“化”的词》《汉语学习》1994年(1)

张云秋(2002)《“化”尾动词功能弱化的等级序列》《中国语文》2002(1)

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(<https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/>), 国立国語研究所

《BCC 語料庫》(<<http://bcc.blcu.edu.cn/zh/cid/3>>), 北京語言大学

辞書

日本語: 『大辞林 第三版』(2006) 三省堂

中国語: 《现代汉语规范词典》第三版 (2014) 外国教学与研究出版社

《新华字典》第11版 (2011) 商務印書館